

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長メッセージ	8
2 会長等出席行事	12
3 委員の辞任	12
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	13
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	13
3 機能別委員会の開催とその議題	13
4 分野別委員会の開催とその議題	14
5 課題別委員会の開催とその議題	19
6 若手アカデミーの開催とその議題	20
7 サイエンスカフェの開催	20
8 総合科学技術・イノベーション会議報告	20
9 慶弔	21

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長メッセージ

会員・連携会員の皆様への会長メッセージ

「日本学術会議第24期1年目（平成29年10月～平成30年9月）の活動に関する評価」における指摘事項に対する考え方について

令和元年6月25日

会長 山極 壽一

本年4月に開催された日本学術会議第178回総会では、外部評価有識者の田中優子座長から、日本学術会議第24期1年目（平成29年10月～平成30年9月）における日本学術会議の活動状況に関する評価（以下「外部評価」という。）について、御報告いただきました。外部評価は、田中座長を始めとする6名の外部評価有識者の皆様に、日本学術会議の活動状況について評価していただき、その内容をまとめたものです。

将来には様々な課題が山積していますが、世界観や人間観、人間の生きる意味など、現在の課題やその解決方法について社会に問うのが学術の役割です。日本学術会議は、あらゆるステークホルダーと対話しつつ、豊かな未来を築くため、より具体的な意見や提言を発出していく必要があります。そのような観点に立つと、今回いただいた外部評価の御指摘は、今後の日本学術会議の進む方向について、非常に重要な示唆を与えてくださっています。御指摘いただいた点について、私の考えと方針をお伝えします。

1. 科学者の代表組織としての役割

【指摘事項（外部評価から抜粋）】

日本学術会議は、学者や学協会にとってのブレインのような役割を担うものだと思うが、第24期の残された期間にブレインとして何をなすのか、ということを考えてほしい。例えば、学協会との連携の推進に向けた具体的な活動や、科学者コミュニティ内外と行う「対話」の内容面の精査等が考えられる。特に、「対話」の内容面の精査に関しては、日本学術会議としての長年の活動の積み重ねを踏まえた上での「対話」と、その時々々の社会的課題を踏まえて時宜を得た「対話」との両方が考えられる。また、日本学術会議の、このような科学者の代表組織としてふさわしい活動については、スピードをもってタイムリーに広報していただきたい。

【指摘事項についての考え方】

日本学術会議は、我が国の科学者の内外に対する代表組織として、科学に関する重要事項を審議してその実現を図り、科学に関する研究の連絡を図ってその能率を向上させるという職務を行っております。その職務を行う上で、第24期では特に「対話」を重視しており、科学者コミュニティ内外とのコミュニケーションをこれまで以上に活性化させています。

具体的には、日本学術会議の活動に協力することを申し出、幹事会で承認された学協会には、日本学術会議協力学術研究団体として日本学術会議の活動に御協力いただいております。日本学術会議の活動に関する情報共有や、意見交換の場を設けての議論等を行っているほか、科学者委員会の下にある学協会連携分科会での検討等を通じて、学協会のさらなる活性化を図っているところです。科学者コミュニティ外についても、産業界については科学と社会委員会の下政府・産業界連携分科会において、報道関係については同委員会の下メディア懇談分科会において、実務者を交えた上で、対話の方法や内容を審議し精査を行っており、また、それらの場で話し合われた内容については、分科会の議事要旨の公開のほか、提言や公開シンポジウム等の形で一般の方にも公表しているところです。広報については、後述のとおり、御指摘を受け止めて改善を図っております。

第24期も残すところ1年半を切り、折り返し地点に入りました。御指摘を重く受け止め、残された期間で日本学術会議として何ができるのか、何をすべきかを念頭に置きつつ活動してまいります。

2. 多様性の確保に向けた支援

【指摘事項（外部評価から抜粋）】

活躍する若手研究者や女性研究者、特に女性研究者について、次世代の育成に資する活動を積極的に行っている方を対象とした賞を創設することにより、日本学術会議として彼らの活動を社会的に承認し、後押ししてはどうか。

また、障害者や高齢者といった分野に注目した活動を行ってはどうか。これらの分野では、工学をより活用することによって課題の解決を図ることができる可能性があり、例えば、ICTを活用した認知症の早期発見や蓄積したデータの利活用等の方策が考えられる。また、従来主流であった「治療」を目的とした研究のみならず、「科学的な予防」や「障害者や高齢者の暮らしやすい社会デザイン」、共生できる社会をめざした「認知症フレンドリー・コミュニティ」などにも焦点を当てた研究をも、推進するような提言等を発出していただきたい。科学者の代表組織である日本学術会議が、そのような社会的必要性の高い分野を後押しすることによって、それらの研究分野に注目が集まりやすくなり、若手科学者の育成にもつながるのではないかと。

【指摘事項についての考え方】

若手研究者や女性研究者自身による次世代育成は、科学者の多様性を確保して学術の進歩を図る上で、非常に重要な活動です。日本学術会議はこの重要な活動を積極的に進めています。日本学術会議自体が御指摘のような賞を新たに設けることは、これまでの歴史的経緯等からには実現が難しいと思われませんが、他機関への働きかけも含め、どのように彼らの活動を評価し、促進していくことができるのか、若手アカデミーや、各部の下に設けられた女性研究者やダイバーシティに関する分科会等においても議論していきたいと思っております。

また、御指摘のとおり、障害者や高齢者といった視点はもちろん重要です。第24期では、まずは高齢社会の重要課題である認知症に関して、病的な段階に至る前の軽度認知障害やその予備軍にまでスコープを広げ、また、工学、看護・保健学、公共政策学、経済学など

の知見も含めた総合的な検討を行うべく、課題別委員会「認知障害に関する包括的検討委員会」を設置し、審議を行っているところです。

人文・社会科学から自然科学までの研究者を擁する日本学術会議の強みを生かし、社会的必要性の高い分野について価値のある提言を発出すること等によって日本の科学技術の向上に資するよう、努めてまいります。

3. アカデミアと市民との関係

【指摘事項（外部評価から抜粋）】

日本学術会議が市民との「対話」を進める際には、未来の研究者たる子供たちの科学的興味を喚起するのみならず、国際共同主催会議等で得られた世界的課題に関する科学的知見についても取り入れることにより、市民の科学的素養を醸成することについても意識していただきたい。さらには、最新の科学的知見を市民に伝えることから一歩進め、市民が参画する研究（シチズンサイエンス）について課題や可能性を審議していただければ、シチズンサイエンスを進める一助になるのではないかと思う。

この場合、「科学」は単に科学的知識という意味ではなく、社会の動向に関する正確なデータ収集やその分析方法、言葉による論理的な思考、それらに基づいた冷静な意見交換、個々の意見の醸成などを含む。このことを前提にして市民と対話することが、人々の行動や判断の質を高めることになる。

【指摘事項についての考え方】

科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させるという日本学術会議の目的を達成するための方策の一つが、御指摘いただいた市民の科学的素養の醸成であると考えます。日本学術会議ではこれまでも、SDGsやゲノム編集技術による新たな生物の登場といった世界的な課題に関する公開シンポジウム等を開催して最先端の研究動向を市民に紹介し、また、サイエンスカフェを開催して科学に関する双方向のコミュニケーションを市民と行ってきました。また、平成30年度からは地方学術会議を新たに開催しており、東京以外の地域における市民の科学的素養の醸成と対話にもより一層力を入れているところです。

また、御指摘のシチズンサイエンスについては、市民の科学的素養を醸成するだけでなく、科学の発展にも寄与しえるものであり、また、今年のGサイエンス学術会議の議論においても重要なテーマの一つになるなど世界的な注目を集めています。日本学術会議では、今年2月にはシチズンサイエンスについて考えるサイエンスカフェを、3月にはシチズンサイエンスを通じた地方課題解決に関するシンポジウムを開催するなど、シチズンサイエンスに関する取組を始めたところです。

日本の学术界にとって必要なことは何なのか、様々な御意見を伺いながら、学術会議として必要なことを見極め、活動していきたいと思っております。

4. これまでの活動等の検証

【指摘事項（外部評価から抜粋）】

提言等の内容について、それがどのように受け止められているのか、これまで以上に検

証が必要ではないか。最近の提言等だけではなく、日本の政策に影響を与えたような提言等も対象として、提言等の長期的な影響についても検証を行ってはどうか。

また、科学技術関係予算は、短期的に成果が上がる可能性が高い分野に配分されがちであるが、将来にわたる学術全体の発展を考えた場合には、第23期3年目の外部評価書でも指摘されているとおり、学術的意義等が短期的には必ずしも明確ではないものの、長期的には学術を支えるような研究成果をもたらす可能性のある研究にも光を当てる必要がある。このような、評価に長時間を要する研究に焦点を当てた分析を、日本学術会議が行ってはどうか。なお、これまでの科学技術関係予算の使途の把握及びその効果に関する評価は、この分析を行うに当たって重要となると思われる。

【指摘事項についての考え方】

日本学術会議の提言等は、その時々時代の背景の下、科学に関する重要案件について、我が国の学術界を結集した審議の成果をお示ししたものであり、科学に関する重要案件に何が該当するかは、時代により異なるものと考えます。過去の重要案件の中でも、「科学の向上の発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させる」という日本学術会議の目的に鑑み、現在でもなお重要であると考えられる事項については、現在でも引き続き審議やフォローアップを行っております。例えば、1950年からの重要案件である軍事的安全保障研究と科学との関わりについて、第24期では、第23期に発出した「軍事的安全保障研究に関する声明」のフォローアップを行うための分科会を科学者委員会の下に設け、アンケート調査等を行いつつ審議を進めているところです。

また、提言等のフォローアップについては、提言等発出後1年以内に、その社会的インパクトに関するインパクトレポートを作成してHPで公開することとされていますが、任意で複数回レポートを作成して公開することができるよう、様式を変更しました。これによって、これまでよりも長期にわたる提言等の影響も見ることができるようになっています。

さらに、長期的に学術を支える研究を推進するためには研究評価が重要であると考え、科学者委員会の下に研究評価分科会を設置しました。この分科会で段階的に実施している研究評価の在り方に関する調査を踏まえ、学術界の発展に資する提言等ができればと考えています。

5. 広報の更なる充実

【指摘事項（外部評価から抜粋）】

市民や外国人を含めたより多くの方々に、日本学術会議が発出する提言等を読んでもらうために、もう少し工夫ができるのではないかと。表題や要旨の日英併記や、要旨の簡略化、現状ではPDFファイルのみとなっている要旨のHTML化等が、工夫の例として考えられる。また、イベントについては、FacebookやTwitter等のSNSを活用した告知や、ホームページへの掲載の工夫によって、市民の方々の参加がより得やすくなるのではないかと。

【指摘事項についての考え方】

日本学術会議の活動は市民にあまり知られておらず、広報の充実は重要な課題であると

考えています。いただいた御指摘は広報の充実に向けた具体的な改善策に関するものであり、大変ありがたく思います。

第24期では、より多くの方々に提言等を読んでいただくため、提言等に英文タイトルをつけることを必須とする規程改正をしたほか、任意で英文アブストラクトを作成するようにしています。要旨の簡略化については、科学と社会委員会において検討を開始しました。提言等の要旨のHTML化については、実行できるよう準備を進めているところです。また、御指摘を踏まえ、すべての公開シンポジウムや提言等についてホームページに掲載し、学術会議広報のTwitterで告知することとしたほか、日本学術会議のホームページからTwitterにアクセスしやすくなるよう工夫をしました。

さらに、より多くの方々が日本学術会議の提言等に興味を持ち、読んでくださるよう、第24期では、第22期及び第23期の提言等をSDGsに関連付けて日本学術会議のウェブサイトに掲載しています。このSDGsに関するページには、約1年間に27,700件の閲覧があり、日本学術会議の提言等に対する社会的関心をさらに高めることができたと考えております。このことを踏まえ、第24期の提言等についてもより多くの方々に読んでいただけるよう、発出時に任意でSDGsとの関連付けを行うことにしました。

予算の制約等があり、すべての課題を一度に解決することは困難ですが、できることから改善を行って、より多くの方に日本学術会議を知っていただけるよう努めてまいります。

第24期の活動を開始して1年半が経過しました。予算等の制約がある中、会員、連携会員の皆様には、日本学術会議の活動に積極的に取り組んでいただいていることを、大変ありがたく思います。外部評価でいただいた有識者の御指摘を踏まえ、科学者コミュニティ内外の関係者との対話をより一層充実させ、社会に貢献する日本学術会議として更なる学術の発展に貢献していく所存です。日本学術会議、ひいては日本の学術の発展のために、今後ともお力を貸していただきますようお願いいたします。

2 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
6月13日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合 参考人	渡辺副会長
6月14日(金) ～6月15日(土)	G20持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合(軽井沢)	武内副会長

(注) 部会、委員会等を除く。

3 委員の辞任

土木工学・建築学委員会 気候変動と国土分分科会 佐賀低平地への適応策実装検討小委員会

財津 知亨 (令和元年5月24日付)

横尾 秀憲 (令和元年5月24日付)

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

なし

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

(1) 財務委員会 (第7回) (5月30日)

- ①機能別委員会及び課題別委員会の開催状況について
- ②その他

(2) 日本の展望2020検討委員会 (第8回) (6月27日)

- ①「日本の展望2020 (仮称)」について (3)
- ②その他

(3) 財務委員会 (第8回) (6月27日)

- ①機能別委員会及び課題別委員会の開催状況について
- ②その他

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) 選考委員会 (第8回) (5月30日)

- ①前々回の議事要旨の確認
- ②次回改選の基本方針について
- ③その他

(2) 科学者委員会 研究計画・研究資金検討分科会 物理学分野の大型研究計画評価小分科会 (第2回) (6月7日)

- ①マスタープラン2020の区分Iの順位づけに関する審議
- ②マスタープラン2020の評価小分科会における審議事項等

(3) 科学者委員会 (第22回) (6月12日)

- ①「日本学術会議協力学術研究団体の指定に係る必要な要件及び手続」の改正について
- ②東北地区会議公開学術講演会「超高齢社会における看取りを考える (仮題)」の開催について

(4) 科学と社会委員会 メディア懇談分科会 (第7回) (6月13日)

- ①新体制の確認

- ②TV番組に関する話題提供
- ③今後の取組
- ④その他

(5) 国際委員会 アジア学術会議等分科会 (第9回) (6月18日)

- ①アジア学術会議等分科会 (第7回) 議事要旨 (案) について
- ②第18回アジア学術会議 (日本会合) の報告
- ③アジア学術会議事前調査 (ミャンマー) の報告
- ④第19回アジア学術会議 (ミャンマー会合) について
- ⑤AASSA役員会等 (韓国) について
- ⑥その他

(6) 科学者委員会 学術と教育分科会 (第7回) (6月21日)

- ①公開シンポジウム「日本学術会議の参照基準と大学教育の質保証」の開催について

(7) 科学者委員会 男女共同参画分科会 アンケート検討小分科会 (第3回) (6月21日)

- ①前回議事録の確認
- ②大学・研究機関向けアンケートの結果について
- ③学協会・研究者向けアンケートの実施について
- ④学術フォーラムの実施について
- ⑤その他

(8) 国際委員会 (第20回) (6月24日)

- ①国際業務に参画するための特任連携会員の推薦について

(9) 科学と社会委員会 政府・産業界連携分科会 (第12回) (6月26日)

- ①これまでのシンポジウム・フォーラムの成果の確認について
- ②これまでのシンポジウム・フォーラムの成果の展開について
- ③10月学術フォーラムについて
- ④その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 言語・文学委員会 科学と日本語分科会 (第4回) (6月1日)

- ①マスタープランについて (木部先生からの報告)
- ②その他

(2) 史学委員会 歴史学とジェンダーに関する分科会 (第4回) (6月7日)

- ①提言案の説明並びに意見交換
- ②提言と関わる公開学術フォーラムの開催について
- ③その他

(3) 社会学委員会 ジェンダー政策分科会 (第4回) (6月8日)

- ①今後の進め方について
- ②その他

(4) 社会学委員会 ジェンダー研究分科会 (第5回) (6月8日)

- ①今後の活動について
- ②本日のシンポジウムについて
- ③その他

(5) 経済学委員会 数量的経済・政策分析分科会 (第4回) (6月9日)

- ①2020年度日本経済学会での共催セッション
- ②関西計量経済学研究会での共催セッション
- ③業務統計利用
- ④マスタープランの公募について
- ⑤統計問題に対する分科会の対応
- ⑥その他

(6) 哲学委員会 いのちと心を考える分科会 (第7回) (6月16日)

- ①ゲノム編集と生命倫理 報告者 松原洋子 委員
- ②オックスフォード会議報告 報告者 石井哲也 委員
- ③社会調査について 報告者 横山広美 委員
- ④意見交換
- ⑤その他

(7) 経営学委員会 地域経営学に関する分科会 (第4回) (6月16日)

- ①提言(又は報告)の素案について
- ②今後の分科会の開催方法及び日程について
- ③その他

(8) 史学委員会 中高大歴史教育に関する分科会 (第6回) (6月21日)

- ①提言に対する査読の検討
- ②今後の審議計画
- ③その他

(9) 哲学委員会 古典精神と未来社会分科会 (第5回) (6月23日)

- ①提言の表出準備について
- ②高等学校における古典教育について
- ③その他

第二部担当

(1) 薬学委員会 医療系薬学分科会 (第4回) (6月11日)

- ①「健康食品・保健機能食品・医薬品の品質保証に関する薬学的アプローチ」に関するシンポジウムについて
- ②誌上シンポジウム(薬学雑誌)の企画について
- ③「薬学におけるセルフメディケーションと品質保証に関する教育」(仮題)アンケートについて
- ④報告書の作成について
- ⑤その他

(2) 農学委員会 農学分科会 (第5回) (6月21日)

- ①話題提供(野口伸 連携会員)
- ②今後の進め方
- ③その他

(3) 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 生活習慣病対策分科会 (第3回) (6月26日)

- ①提言について
- ②医学教育に関するアンケートについて
- ③その他

第三部担当

(1) 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP合同分科会 C1iC小委員会 (第2回) (5月30日)

- ①C1iC小委員会24期活動について
- ②C1iC SSG活動報告
- ③WCRP戦略プランについて
- ④関連シンポジウム報告
- ⑤意見交換
- ⑥その他

(2) 環境学委員会 環境思想・環境教育分科会 (第4回) (5月30日)

- ①小委員会の報告(1月7日開催)
- ②「記録」について

- ③報告（井上委員報告・小崎委員報告）
- ④次回の予定

（3）地球惑星科学委員会 IUGG分科会（第4回）（5月30日）

- ①IUGGの最近の活動について
- ②IUGG総会（100周年記念大会）について
- ③その他

（4）化学委員会 物理化学・生物物理化学分科会（第4回）（5月30日）

- ①化学・情報科学の融合による新化学創成に関しての、物理化学分野からの意見のとりまとめ
- ②物理化学分野における研究評価について
- ③地方にある大学における教育研究環境の現状把握と問題提起について
- ④その他

（5）化学委員会 高分子化学分科会（第4回）（5月31日）

- ①海洋プラスチックに関する澤本先生の講演とディスカッション
- ②高分子科学の最近の情勢に関するディスカッション
- ③その他

（6）電気電子工学委員会 URSI分科会 無線通信システム信号処理小委員会（URSI-C小委員会）（第5回）（5月31日）

- ①第24期URSI-C小委員会第6回会合の開催について
- ②今後の公開研究会の企画について
- ③その他

（7）土木工学・建築学委員会・心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同 子どもの成育環境分科会（第7回）（6月1日）

- ①今年度の活動計画について
- ②提言の骨子案について
- ③その他

（8）地球惑星科学委員会 地球惑星科学人材育成分科会 地学・地理学初等中等教育検討小委員会（第3回）（6月3日）

- ①提言の構成と役割分担の確認
- ②提言作成のための進行状況の報告
- ③今後の予定に関して

（9）機械工学委員会 生体医工学分科会（第2回）（6月4日）

- ①幹事の選出について
- ②我が国の生体医工学分野に関する現状と課題、今後の振興策
- ③その他

(10) 電気電子工学委員会 URSI分科会 電磁波の雑音・障害小委員会 (URSI-E 小委員会) (第3回) (6月6日)

- ①E小委員会の活動状況の報告
- ②E小委員会の今後の活動予定について
 - a) 今後の小委員会の活性化と役割分担について
 - b) URSI Centenary Book への寄稿
 - c) 国際会議対応 (JRAM, GASSなど)
- ③その他

(11) 情報学委員会・心理学・教育学委員会・情報学委員会合同 教育データ利活用分科会 (第5回) (6月14日)

- ①本年度の活動予定について
- ②提言の内容について
- ③シンポジウムについて
- ④その他

(12) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 安全目標の検討小委員会 (第8回) (6月17日)

- ①今期とりまとめ方針
- ②安全工学シンポジウムについて
- ③その他

(13) 地球惑星科学委員会 IUGS分科会 (第4回) (6月18日)

- ①各小委員会からの報告事項及び活動方針
- ②IUGS Executive Committee Meeting 報告
- ③Geohazard Task Group 活動報告
- ④ICS-SQS活動報告
- ⑤その他

(14) 電気電子工学委員会 URSI分科会 電磁波計測小委員会 (URSI-A小委員会) (第2回) (6月18日)

- ①URSI 100周年記念誌執筆について
- ②URSI-JRSM開催について
- ③各委員の活動報告
- ④今後の活動方針
- ⑤その他

(15) 総合工学委員会 原子力安全に関する分科会 福島第一原発事故調査に関する小委員会 (第10回) (6月20日)

- ① 新知見への取り組みについて審議
- ② 規制の在り方についての審議
- ③ その他

(16) 電気電子工学委員会 URSI分科会 非電離媒質伝搬・リモートセンシング小委員会 (URSI-F小委員会) (第3回) (6月20日)

- ① 今年度の開催計画について
- ② その他

(17) 地球惑星科学委員会 IUGS分科会 IPA小委員会 (第3回) (6月21日)

- ① IPA、IPCの情報について
- ② 中国古生物学会との交流・第一回アジア古生物会議について
- ③ 自然史標本散逸問題検討について
- ④ 大型研究計画の進展状況
- ⑤ その他

(18) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科会 計算力学小委員会 (第3回) (6月21日)

- ① 第8回計算力学シンポジウムの報告
- ② 第9回計算力学シンポジウムについて
- ③ マスタープランについて
- ④ その他

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) 自動車の自動運転の推進と社会的課題に関する委員会 (第4回) (5月31日)

- ① 2019年度予算について
- ② 話題提供及び議論
- ③ 学術フォーラムについて
- ④ その他

(2) フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会 持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会 持続可能な発展のための海洋教育と人材育成小委員会 (第5回)・同分科会ESD・SDGs小委員会 (第3回) 合同会議開催について (6月2日)

- ① 学術フォーラム「フューチャーアースと学校教育：持続可能な社会と海洋の実現を目指して」(9月8日(日))について
- ② その他

(3) オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会 (第6回) (6月7日)

- ①情報提供1 (久留島委員)
- ②情報提供2 (上村みどり 日本学術会議連携会員、帝人ファーマー株式会社生物医学総合研究所上席研究員)
- ③その他

(4) 防災減災学術連携委員会 (第7回) (6月13日)

- ①開会挨拶と趣旨説明
- ②出席者の紹介
- ③災害医療関係の学会から問題提起
- ④理工学分野の課題と解決策
- ⑤府省庁の政策
- ⑥全体意見交換
- ⑦学術会議、府省庁、防災学術連携体の構成学会からのお知らせ
- ⑧閉会挨拶

(5) 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会 (第5回) (6月18日)

- ①最先端スポーツデータに関する話題提供
鹿屋体育大学 前田明先生
- ②話題提供2 (後日お知らせ)
- ③学術フォーラム開催内容について
- ④意見交換
- ⑤今後の活動について

(6) オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会 (第7回) (6月24日)

- ①情報提供1 (溝端委員)
- ②情報提供2 ()
- ③その他

6 若手アカデミーの開催とその議題

なし

7 サイエンスカフェの開催

なし

8 総合科学技術・イノベーション会議報告

1. 本会議

6月19日（水） 欠席

2. 専門調査会

なし

3. 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員会合

6月 6日（木） 欠席

6月13日（木） 出席

6月27日（木） 出席

9 慶弔

・ご逝去

菅谷 文則（すがや ふみのり） 令和元年6月18日 享年76歳
元連携会員（第20－21期）、滋賀県立大学名誉教授